

# 「子どもたちに愛と慈しみを」 幼児教育の先駆者

## 亜武巢 マーガレット



### 異国での困難な日々

なんて自然の美しいところだろう。汽車の窓から、富山県の風景を見たマーガレット・エリザベス・アームストロングさんは、一目で富山が好きになりました。

マーガレットさんは、カナダから来た宣教師（キリスト教を広めるために、さまざまな活動をする人）でした。それまで長野や石川などで教会の仕事をしていたのですが、今度は富山の教会で働くためにやって来たのです。

マーガレットさんは、さっそくキリスト教を広める活動を始めましたが、それは苦難の日々の始まりでした。

ある日、いつものように布教のために町を歩いていると、

「ガイジンだ、ガイジンが歩いているぞ」

富山にずっと住んで、日本が好きになったから、後に帰化した（日本人になった）んだよね。



富山県で初めて、私立幼稚園をつくった人なんですって。



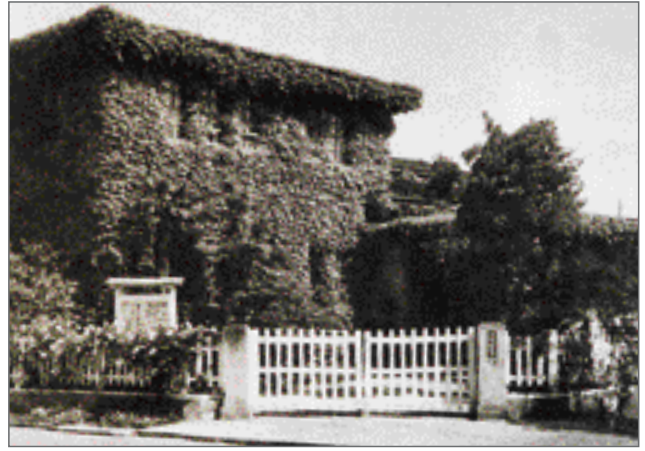
亜武巢マーガレットさんは、もとはマーガレット・エリザベス・アームストロングさんといって、カナダ生まれの人でした。



子どもたちの笑顔は何よりもすばらしいものだわ。みんな元気に、すくすく育つように私は、できる限りのことをしていきたい。

亜武巢マーガレットさんのミニ年表

西暦	年齢	
1877年		カナダ オンタリオ州サーニアで生まれる
1903年	26歳	トロント市の神学校を卒業する カナダ合同教会伝道師として来日、東京英和女学校に勤める
1910年	33歳	富山市に移住する
1911年	34歳	アームストロング青葉幼稚園を開園する
1941年	64歳	日本に帰化し、日本名「亜武巢マーガレット」となる
1945年	68歳	空襲により青葉幼稚園が焼失する
1949年	72歳	募金や補助金により青葉幼稚園を再建する
1960年	82歳	亡くなる



アームストロング青葉幼稚園旧園舎（1949年～1976年）

幼稚園をつくりたい

マーガレットさんは、富山に幼稚園をつくること  
考えるようになりました。  
当時、富山県には公立の幼稚園が一校しかなく、  
幼稚園に通っている子どもの割合は、日本中で一番  
低かったのです。  
幼い子どもたちの教育は、とても大切なものだと  
分かってもらいたい。  
マーガレットさんは、熱心に訴え、武家屋敷を借  
りて、さっそく幼児教育を始めました。  
やがて、マーガレットさんの熱意が伝わり、文部  
省の許可を得るために協力してくれる人などが現れ  
て、富山市総曲輪に県内初の私立幼稚園が開園する  
ことになりました。これが、アームストロング青葉

と冷やかすような言葉が聞こえてきました。しか  
も、マーガレットさんが悪口を避けるように通りす  
ぎようとすると、石や泥まで投げつけてくるのです。  
肌や目の色が違うというだけで、どうしてこんな  
目に…。胸が締めつけられるような悲しいことが、  
毎日毎日起こり、つらい日々が続きました。  
でも、きつとそのうち、私を友達だと思ってくれ  
る人が現れるに違いない。  
マーガレットさんの考えた通り、少しずつマーガ  
レットさんに理解を示す人々が出てきました。転ん  
で泣いている子どもを見ると抱き上げ、汚れを取っ  
たり、優しい言葉をかけたりする様子を見て、マー  
ガレットさんの心の優しさが、だんだん伝わって  
いったのです。

アムス先生の教え

優しく子どもたちを見守るマーガレットさんは、  
子どもたちや  
その親から慕  
われ、「アムス  
先生」「や、ア  
ム先生」と呼  
ばれるように  
なりました。  
アムス先生  
は、手洗いな  
どのしつけは  
かなり厳しく  
指導する先生  
でした。

幼稚園です。  
開園式の日には大勢の人々が集まりました。マー  
ガレットさんは、人々に向かって上手な日本語で演  
説をしました。  
「この幼稚園は、子どもたちのものです。子どもた  
ちが楽しく学べるように、オルガンやシーソーなど  
の設備も、十分整っています。また、歌やフォーク  
ダンスなど、新しい教育も行います。今日から子ど  
もたちは生き生きと過ごせるでしょう」  
演説が終わると、大きな拍手がわき起こりました。  
マーガレットさんの言葉通り、園内には元気に遊  
ぶ子どもたちの声が響き渡るようになり、県内には、  
青葉幼稚園の分園が次々とつくられていきました。



ピアノの前で。（来日後まもなくのころ）

しかし、心に響く注意の仕方を心得た優しい先生でした。

ある日のことです。一人の男の子が、捕まえたとんぼのしっぽに糸をくりつけて遊んでいました。ちょうどそこへ、アムス先生が通りかかりました。

「どうしよう、アムス先生に叱られる！」

そう思った男の子は、身をすくめました。ところが、アムス先生の口から出た言葉は、

「とんぼ、かわいいそうね」

という一言でした。男の子は、すぐに「ごめんなさい」と言っ、とんぼを逃がしてやりました。

アムス先生は、子どもたちの健康についても、熱心に取り組みました。というのも、子どもたちのお弁当がご飯と小さな焼き魚一切れといった具合なので、栄養の偏りがとても心配になったのです。

アムス先生は、お母さんたちを集めて、料理教室を開くことを思いつきました。

「子どもたちの健康のために、お母さんたちには正しい知識を持ってもらわなければなりません。食事に、牛乳と果物を取り入れてください。栄養バランスのよい食事が大切なのです」

そう言って、熱心に料理の仕方を教えました。また料理だけではなく、衛生面の指導や食事のマナーなどについても教えました。



## りんご

アムス先生が、子どもたちに「さあ、これからお絵かきをしましょう」と言い、机の上にぼつんと1つのりんごを置きました。

誰もが黒のクレヨンを手に取り、りんごの実の外側の線を丸く描いてから、枝を付け加えました。そして、赤いクレヨンで、内側を塗っていきました。

みんなは、「ほめてもらえるかな」と期待しました。

ところが、アムス先生は何も言わず赤いクレヨンを持ったままの男の子の手を取り、小さな円を描き始めました。その円はしだいに大きくなり、りんごの実になっていきました。アムス先生は、「りんごの描き方は一つじゃないのよ」

と男の子に優しく語りかけました。

アムス先生は、「一人ひとりの考えを大切にしましょう。一方的な見方や考え方ではいけない」ということを教えたかったのです。

(イラスト/富山市立桜谷小学校6年 高田美樹さん)

母が子の成長を願う気持ちに、国や文化の差はないはず。今、目の前にいる子どもたちに、幸せになつて欲しい。アムス先生の教えには、そんな気持ちがいつも込められていました。

## 富山の子どもたちとともに

日本が戦争への道を歩み始めていたころ、62歳になったアムス先生は、突然、故郷のカナダへ帰国してしまいました。



アムス先生は、いのちの大切さを子どもたちに教えました。

(富山市立桜谷小学校6年 明地穂波さん)

## 子どもの感想

ありがとう

マーガレット先生

マーガレット先生は、周囲の人々の冷たいしうちにも耐え抜き、富山の子どもの幸せを願い、何もないところからすばらしい幼稚園をつくり上げたすごい人です。

私は、今にもつながる進んだ教育を子どもたちに熱心に教えたり、子どもたちの健康を気遣ったりするなど、なかなかできることではないと思います。

また、母国の家族と永遠の別れをしてまでも一生懸命富山の人々を守ってくださいました。私は、とても感謝したい気持ちです。

今の子どもたちが、すばらしい幼児教育を受けることができるのもマーガレット先生の努力のおかげだと思います。

(富山市立桜谷小学校6年 林なつみさん)



**アムス先生のエピソード** : 戦争後、富山県にきた進駐軍は、神通中学校(現在の富山中部高校)をなくす計画を打ち出しました。このことを知ったアムス先生は強く反対し、学校を守りました。



保護者や保母、子どもたちはとても不安でした。「先生は、もう2度と、富山には戻っていらっしやらないかもしれない…」

しかし、1か月後、アムス先生は、子どもたちへのおみやげのハンカチと石けんを手にして、富山に帰ってきました。

実は、アムス先生はこの先もずっと日本に住むことを決心し、家族や親戚に永久の別れを告げるために、カナダへ行ってきたのでした。

ところが、アムス先生が戻ってきた数日後。「外国人に子どもは任せられない」と考える人々が騒ぎ出したり、政府が「外国人を園長にはならない」と命令を出したため、アムス先生は、園長の仕事を辞めることになってしまいました。

アムス先生は、考えました。富山で、子どもたちのために働くには、日本人になるしかない。

県内初の保育園の園長

堀田 くに



亜武巢マーガレットさんのように、子どもたちの幸福を願った先輩の一人に、堀田くにさんがいます。

「子どもは親の子であると同時に、『社会の子』です。町の子は、その町に住むみんなまで育てなくては！」

そこで、アムス先生は帰化（国籍を日本に）し、名前を亜武巢マーガレットと変え、正式に日本人となりました。

これで富山の子どもたちとずっと一緒にいられることになったわ！

アムス先生は、一生をかけて、愛の灯を子どもたちの胸に灯していったのでした。



アムス先生は、富山で一生を過ごすことを決心したとき、呉羽山の長岡墓地に自分の墓を買いました。

くにさんは、伏木町の子どもたちのありさまに心を痛めていました。

当時、伏木港では、多くの女性が、船に荷物を積んだり降りたりする仕事をしていました。母親たちは、家計のために、子どものために必死に働いていたのです。

しかし、子どもだけで留守番をすると、ケガや病気をしても、すぐに助けてくれる大人がいなかったために大変なことになったり、命の危険にさらされたりすることが増えました。

伏木町婦人会の会長を務めていたくにさんは、そんな母親と子どもたちを何とか救おうと、保

育園を開くことを決心しました。これが、県内ではじめての保育事業でした。

くにさんを中心とした婦人会の会員は資金を集め、保育園を開きました。この保育園は、働く母親のために便利であるように工夫されていたので、だんだん子ども

の数が増えていきました。くにさんは、保育園の園長として、91歳まで仕事を続けました。

くにさんを知る人は、何かをじつと見つめるような一生でした」と語っています。

日本の文化や風土を愛して、帰化した人は他にもたくさんいます。

困難がたくさんあっても、くじけなかったアムス先生は、とても強い人だと思うな。

アムス先生は、本当に富山や子どもたちのことが大好きだったんですね。



亜武巢マーガレットさんと同じように、優しくおだやかな心が大切だと考えた先輩がいます。それが次のページで紹介する梅原真隆さんです。